

「医師の仕事」活動紹介

- 講師：〔氏名〕 島村 弘宗 先生
〔所属〕 国立病院機構仙台医療センター
■ 参加人数 75人(午前36人、午後39人)

講座担当者 熊谷 裕也

「医師の仕事」では、仙台医療センターで総合外科部長として、また、仙台市医師会の副会長としても活躍されている島村弘宗先生を講師としてお迎えし、医師になるまでの経緯や医師の仕事の実際、やりがいについて教えていただきました。手術の映像や縫合の演習を交えながら、医師の仕事の大変さや繊細さを実感することもできました。

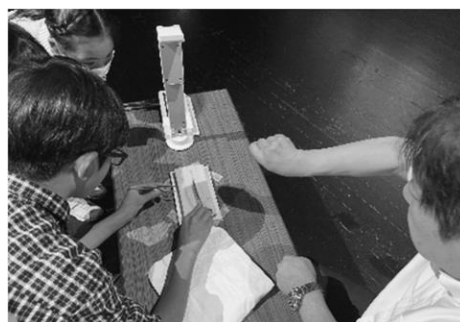
1. 医師の仕事～講話～

医師の仕事の実際についてご紹介いただき、その崇高さと大変な部分について知ることができました。島村先生が普段どのような姿勢で仕事に向き合っているか、気を付けていることは何なのかなど、具体的なエピソードを交えながら語っていただき、医師という仕事をより身近に感じることができました。こどもたちは、興味津々な様子で熱心にメモを取りながら話に耳を傾けていました。



2. 医師の仕事～映像視聴と縫合演習～

ウイルスやがん、手術の実際についてご説明いただく際に、映像資料をご提示いただきました。映像視聴を通してウイルスの増え方やそれと戦った人たち、がんの転移のメカニズムと治療法について学ぶことができました。また、手術の映像はインパクトの強いものではありませんでしたが、繊細な手つきで手術を進める様子に感心しながら食い入るように見ていました。さらに、遠隔操作ができる手術用機器も開発され、国外にしながら手術に携わるという最新の方法に驚く様子も見受けられました。



3. 質疑応答から

- Q. 医師になるために、今、どんなことをがんばれば良いですか。
A. 何かに一生懸命になれると良いと思います。また、毎日の授業も大切にしてください。積極的に受けることで、学びもたくさん得られます。英語を使う場面も多いので、勉強をがんばってください。

4. まとめ

時に、治療に向き合う患者の姿に胸が苦しむこともあります。病気を治したり命を助けたりすることができる、他にはないやりがいにあふれた仕事です。回復した患者さんに感謝をされるときは本当に嬉しいとおっしゃっていました。「医師になるにはたくさんの勉強が必要ですが、目の前の学校の勉強や熱中できることを一生懸命やって、相手の気持ちをよく考えられるようになれば、きっと良い医師になれる。」と、ご自身の経験も踏まえながら語っていたことも印象的でした。

5. 児童生徒の感想紹介

- 今度病院に行くときは、先生に大変なことや楽しいことを聞きたくなりました。(台原小 5年生)
- 医師になったら、たくさんの人に向き合うことになるから、相手の気持ちをよく考えて行動に移すことができるようになっておきたいと思いました。(柳生中 1年生)

「アナウンサーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 渡辺 祥子 先生
〔所属〕 フリーアナウンサー・朗読家

■ 参加人数 33 人

講座担当者 橋本 憲司

フリーアナウンサー・朗読家の他にも雑誌の編集長など、言葉を取り扱うお仕事で多方面でご活躍させている渡辺祥子先生を講師にお迎えしました。仕事の内容や魅力だけでなく、舞台とマイクを使用して実際にアナウンサーや記者の体験を取り入れながらご指導いただきました。

1. アナウンサーの仕事について

アナウンサーの仕事はただ原稿を読むだけではありません。「言葉を通して情報と人、人と人をつなぐ」「言葉で人に勇気や希望を届ける」仕事でもあることを教えていただきました。受講生たちは先生の「百羽のツル」の朗読を通して、映像がなくてもその場面が頭の中でイメージできることに驚き、「言葉の力」を実感していました。実は、昔から話すことが得意だったわけではなかったということを教えてもらい、自分が抱いた夢に向かって努力することの大切さを学んでいました。



2. 発声練習と原稿読み

早口言葉や表情筋のトレーニング、呼吸法を指導いただきながら正しい発声について学びました。また、実際にキャスター・レポーター・気象予報士になりきって原稿を読む体験をしました。先生からは、全受講者に一人ずつアドバイスをいただき、自信をもって原稿を読むことができました。本番では、緊張しながらも実際にテレビスタジオと現場にいるような感覚で舞台の上から発表しました。普段ではできない体験に真剣に取り組む姿が見られました。



3. 質疑応答から

Q. 正しい発音をするにはどうしたらいいですか？

A. 声のベクトルを意識しています。言葉のアクセントやイントネーションに気を付けることで、聞いている人がその様子をイメージしやすくなります。

Q. アナウンサーとして普段から心がけていることは何ですか？

A. 言葉を大切にしています。発する言葉で相手を傷つけることもできるし、やる気にさせることもできます。言葉というのは「諸刃の剣」だと思っています。

4. まとめ

「言葉は生きる力を引き出すもの。言葉を大切にすることは周りの人を大切にすること、自分を大切にすること。」渡辺先生がこどもたちに送ってくれた言葉です。また、夢を持つことの大切さとその意味についてもお話してくれました。「夢とは自分の背中を押してくれるもの。今の自分を輝かせてくれるもの。」今、自分が興味を持っていることに全力で挑戦することの大切さもこどもたちにはしっかりと伝わっていました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ アナウンサーの仕事はどんなことを大切にしているのか、聞いてよかったです。仕事について、興味を持ちました。また、講師の方が努力している事はすごいと思いました。（岩切小 5年）

○ 「言葉の大切さ」を知ることができました。普段から周りの人を助けられる、優しい言葉遣いができるように心がけたいと思いました。これからも1日を大事にして夢を見つけたいです！

（七北田小 6年）

「警察の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 清澤 直志先生、桜井 裕子 先生
〔所属〕 宮城県仙台東警察署

■ 参加人数 25 人

講座担当者 加藤 徳明

私たちの安全を守る警察の仕事について、仙台東警察署より清澤先生、桜井先生をお招きし、警察学校での生活や実際の業務内容についてお話しいただきました。また、こどもたちが鑑識の指紋採取方法を体験しました。

1. 警察官になるまで

警察学校での実習と生活の様子をDVDを見ながら学習しました。警察学校では6か月から10か月の間、警察官になるための法務、実務の知識と技能を学び、市民の安全を守るために日々努力している様子が伝わってきました。警察官の仕事は、地域の安全を守る交番や駐在所の地域部、強盗や特殊詐欺などの凶悪事件を扱う刑事部、交通事故による犠牲者を減少させるために取り組む交通部等、多岐に渡っていました。



2. 鑑識の仕事(指紋採取)

実際に行われている鑑識の指紋採取方法を体験しました。アルミニウムの粉末を付着させ特殊なブラシで指紋を採取しました。取り組んでみると粉とブラシの加減が難しく「なかなか上手できない」と捜査の大変さを知る機会となりました。



3. 質疑応答から

Q. やりがいを感じる時はどんな時ですか。

A. 遭難救助を担当していた際に、遭難者を助けてありがとうと言われたこと。警察として当然のことを行っているが感謝されると改めてやりがいを感じます。

Q. 拳銃を使ったことはありますか。

A. 使用することは滅多になく、使用しなくてもいいように日々対応している。しかし、使用する場面に備えて毎年訓練をしている。

4. まとめ

警察官の仕事は、「ひと、まち、くらしを守る。」仕事です。私たちの安全、地域の安全、社会の安全のために日々努力していることを講話をとおして改めて実感することができました。最後に、「小中学生の時期に、自分はこんなことをやってみたいという希望を持つこと」「ルールを守って生活すること」「今日の受講生と将来一緒に仕事ができることを楽しみに、地域のために頑張っていきたい」というメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 指紋を見付ける作業でとても時間がかかったけれど、警察官はすぐに見つけることができるからすごいと思いました。(中田小 5年生)

○ 実際に行っている仕事の体験をさせてもらってとても楽しかったです。貴重な体験をこれからに生かしていきたいと感じました。(上杉山中 2年生)

「ゲームクリエイターの仕事B」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 志村 淳 先生
〔所属〕 専門学校デジタルアーツ仙台

■ 参加人数 37 人

講座担当者 後藤 亮甫

現在、専門学校デジタルアーツ仙台のゲームクリエイター科で学生を指導されている志村 淳先生を講師としてお迎えし、講師の先生が実際に作ったゲームの中身を説明しながら算数・数学との関わりやゲームを作る手順などについてお話しいただきました。

1. ゲームの中に数学が!?

志村先生がプログラムを組んで作成した3Dゲームを実際に動かしてみせたことで、こどもたちの興味を一気に引きつけていました。ゲーム中で、キャラクターやオブジェの位置には、数学が大きく関わっていて、X軸、Y軸、Z軸の3つの座標を使い決められていて、中学校3年生の数学で習う『三平方の定理』が基本となることを教えていただきました。

また、この3つの座標は、物体の動きにも関わり、この調整を間違えるとゲームのおもしろさに影響することも教えていただきました。



2. ゲームの企画から実際にお店に並ぶまで

講師の先生が、今でも実際にやっているゲームの名前を出すとこどもたちは大盛り上がりしゲームの人気度が分かりました。そのゲームの企画から商品化されるまでの動画を見ながら、一つのゲームを作るのにプロデューサーを始め、ゲームデザインやプログラマーなど多くの人が携わり、3~5年以上の年月をかけて作られていることを教えていただきました。さらに、シリーズ化されていると『1』を作っているところから『2』の企画が始まっていることも話していました。



3. 質疑応答から

Q. ゲームクリエイターになるにはどんな勉強をしておいた方が良いですか？

A. 先ほど話した算数・数学もありますが、どんな勉強でもゲームを作る要素としては大切で、役に立ちます。今やっている勉強を頑張ってください。

Q. 教えた学生で有名になった学生はいますか？有名なゲームはありますか？

A. いますが、どんなゲームを作っているかなどは私も教えてもらえません。理由は、ランダムに現れる仮想アイテムを扱うゲームだと、場合により炎上につながってしまう恐れがあるからです。

4. まとめ

ゲームクリエイターは、憧れられる職業の一つであるが、クリエイターだけでは面白いゲームを作ることはできないことを学びました。多くの人に関わり、制作会社も一緒になってゲーム制作を行っていることを教えていただきました。「やっている人はやる気がある。ゲーム制作は、小学生・中学生関係なく作ることができるので、やる気次第で作れる。興味のある人は作ってみてください」とメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- ゲームやAIが直角三角形につながっているとは思いませんでした。中学生になって数学やプログラミングを学ぶときにこのことを思い出したい。(南光台小 6年生)
- ゲームの作り方や必要なことが知ることができて、とても楽しかったです。興味が湧いてきたので、機会があったらゲームを作りたいと思います。(八軒中 1年生)

「天文台の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 細谷 直斗 先生

〔所属〕 仙台市天文台

■ 参加人数 22 人

講座担当者 庄司 千穂

校外学習などでも利用する仙台市天文台から講師の先生をお迎えして、天文台の仕事について学びました。天文に関するお仕事についてのお話を伺ったり、実際に天文台で行われている「太陽の黒点」観測資料を使った分析作業を体験したりして、受講生は夢中になって活動していました。

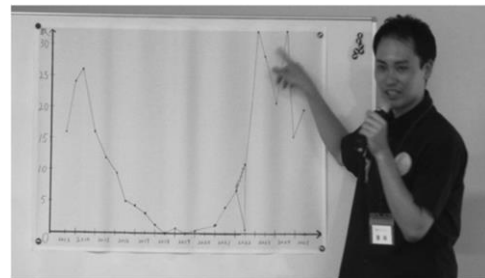
1. 天文台の仕事とは ～仙台市天文台の場合～

研究者を目指して物理学を学んでいた細谷先生は“宇宙のことをたくさんの人に伝えたい”という思いから、天文台で働くことを選んだそうです。仙台市天文台では、様々な部署に分かれて多くのスタッフが働いていること、運営には「観測研究」「マネジメント」「メディア制作」「教育支援」など、たくさんの業務があることについても教えていただきました。



2. 天文台での観測研究を体験！

仙台市天文台では、私たちが観ることのできる展示やプラネタリウムでの説明のほか、天体の観測研究もしているそうです。スタッフの方が実際に観測した「太陽の黒点」出現数の記録表を見せていただきました。



受講生は、お借りした記録表から“黒点の月平均出現数”を計算する作業を体験しました。みんなの計算結果を、先生にグラフにさせていただくと一定の規則性があることが分かり、受講生たちは皆、わくわくした納得の表情でした。

3. 質疑応答から

Q. どういう勉強をしたら天文台で働けますか。

A. 大学で物理学を学びました。物理学の中に天文に関する勉強が含まれていて、自分の場合は、宇宙の始めの時期についての研究をしていました。

Q. 仕事のやりがい、大切にしていることは何ですか。

A. 多くの人に宇宙や星をもっと身近に感じてほしいと思って仕事をしています。来館した皆さんに伝える楽しさを味わえるのがこの仕事の魅力です。

4. まとめ

天文台で働くのに必要なことは「天文や宇宙の知識」「理科や数学の知識」「コミュニケーション能力」であること、何よりも「星や宇宙が“好きという気持ち”」が大切だと教えていただきました。また、理科や科学、算数・数学の勉強以外にも、自分が好きなことに打ち込む気持ちが夢につながるので、ぜひがんばってほしい、とすてきなメッセージをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ この講座を聞いて、天文や星・星座について、もっと興味がわきました。休み中、できるだけ多く天文台に行きたいと思いました。 (八幡小6年生)

○ 自分の好きなことに対しての気持ちを切らさないことと、好きになったきっかけを忘れないことが大事ということが分かりました。 (上杉山中1年生)

「ロケットエンジン開発に関わる仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 島垣 満 先生

〔所属〕 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター

■ 参加人数 33 人

講座担当者 小村田 貴寛

ロケットエンジンの研究開発をしている島垣満先生をお迎えして、現在研究されているお仕事の紹介や現在の日本における宇宙開発の実際、そして先生ご自身が職業を選ぶまでどのような道筋を辿られたのかご講義いただきました。常にこどもたちに寄り添いながらやさしく語り掛け、多くの質問にもお答えいただきました。

1. 宇宙に関わるお仕事と研究

つくば宇宙センターや種子島宇宙センターの施設で行われている研究開発や、島垣先生が所属する角田宇宙センターで行われているロケットエンジンの研究についてご紹介いただきました。昨今ではたくさんの民間企業も宇宙産業に参入していて、JAXAとの共同研究もされています。角田宇宙センターには研究者が多く在籍しており、研究以外に設計や試験準備のためのエンジンや部品の組み立て、センサーの組み付けなど多様な仕事があります。



2. 一番伝えたいことは「国語力（道徳心・学ぶ力・思考力）」

宇宙に関わる仕事というと、理数系の知識が必要と思われるのですが、研究を人に伝わりやすいようにまとめる力や発表する力、関係各所の人たちとのコミュニケーション力など「国語力」が非常に大切です。大人になるまであまり本を読んでいなかった先生は働いてからそれを再認識され、意識的に読書をしています。現在本当に難しいことをやっているのでも100点を目指さなくてもOK。今できなくても当たり前と思いつつ、よく考える思考力を大切にして常に前を向いて計画的に取り組んでいると伝えていただきました。



3. 質疑応答から

Q. ロケットがうまく飛ぶためには、どこの部分の開発が重要ですか。

A. 全部です。ターボポンプも噴出器も燃焼室もノズルも。どの部分も大事です。

Q. どこでどのような勉強をしたら開発の仕事につけましたか。

A. 工業高等学校→大学工学部機械工学科→大学院前期博士課程→大学院後期博士課程→博士号を取得。教授の勧めでロケットエンジンの研究を志しました。

4. まとめ

「心がつらく・苦しくなったときこそ、何に対してつらいのかまたは思考したことをノートに書き、自分がつらいという事実を認めてあげてください。そうすると軽くなり、糸口が見えてくることがあります。心が少し軽くなり、気持ちが晴れ、ささいなちっぽけな成功を少しずつ得て、その積み重ねをワクワクしながら、自分を大好きになっていき、そして昨日の自分より今日をよくしていこう。」とエールをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 前向きに考えたり、自分を褒めたりすることが大切と言っていたので、このようなことを気を付けて生活していきたいと思いました。 (上杉山通小 5年生)

○ 好きなことや嫌いなことは誰にでもあるけど、人それぞれの個性をワクワクとして仕事にできるのはとてもすてきなことだと思いました。 (第一中 2年生)

「ウエディングプランナーの仕事」活動紹介

- 講 師 : [氏名] 佐藤加奈先生 高橋佳乃子先生 オーダーブライダルパレスへいあん
 ■ ヘ ア メ イ ク : [氏名] 吉住香穂先生 三幸学園仙台ウエディング&ブライダル専門学校
 ■ モ デ ル : [氏名] 川勝愛斗先生 円谷江里香先生 三幸学園仙台ウエディング&ブライダル専門学校
 ■ 引 率 : [氏名] 石川孝紀先生 折笠美江先生 三幸学園仙台ウエディング&ブライダル専門学校

〔所属〕 みやぎブライダル協議会

■ 参加人数 30 人

講座担当者 菅原 浩江

みやぎブライダル協議会所属、佐藤加奈先生と高橋佳乃子先生をお迎えして、ウエディングプランナーの仕事について学びました。結婚式はこれからの新しい人生の「誓い」を言葉で示し、ゲストの皆様「感謝」の気持ちを伝える場でもあります。挙式当日を迎える日まで、新郎新婦さんに寄り添いながら準備していきます。

1. ウエディングプランナーの仕事

「結婚式」って何でしょう？ワクワク楽しいイメージもありますが、これからの人生を共に過ごしていく節目としてのセレモニーを、新郎新婦やゲストのために企画、プロデュースする仕事です。事前の打合せから、当日の進行まで、衣装や小物、演出などまで細やかな気づかいが必要です。



2. 模擬挙式体験

ブライダル専門学校の学生モデルさんが、本物さながらにウエディング衣装をまとい、入場の扉オープンから退場まで、模擬とは思えぬほどのリアル体験でした。まるで、シネマのひとコマに身を置いているような錯覚を感じました。会場はチャペルに変身し、生徒たちは手作りの花束で新郎新婦へ祝福の想いを届けました。



3. 質疑応答から

- Q. お客様との打ち合わせで心掛けていること、大切にしていることは何ですか？
 A. お客様の話をたくさん聞くことです。話をしていくうちに、おふたりの心の奥にある本心（本音）を聞き出して、提案しながら作り上げていくことです。
- Q. この仕事をしていて一番嬉しかったこと、やりがいを感じたことはありますか？
 A. お客様の希望通りの挙式で、ゲストの方々にも喜んでいただけた時です。その為には、お客様の話に耳と心を傾けて、しっかりとした準備をすることが重要です。

4. まとめ

プランナーの先生から、小学生の時に出席した親戚の結婚式のことが忘れられず、そのような仕事を志したと伺いました。人のためになる、幸せのお手伝いができるという、とてもすてきな仕事だと誇りに思っている様子がとても素晴らしかったです。

5. 児童生徒の感想紹介

- ウエディングプランナーの仕事は新郎新婦様やゲストの方々に喜んでいただくという、人のために役立てる仕事でいいなと思いました。 (八幡小 5年生)
- この講座のことをよく知らないまま参加しましたがとても勉強になりました。次回は、もっと調べてから、またこの話を聞きに来たいです。 (片平丁小 6年)
- ウエディングプランナーの仕事について、新しい事を学べて良かったです。体験してみて、とても輝いている仕事だなと思いました。 (桜丘中 2年生)

「農家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 嶺岸 若夫 先生

■ 参加人数 22 人

講座担当者 横田 崇

「農家の仕事」では、仙台市太白区茂庭で農業を営む嶺岸若夫先生を講師にお迎えしました。実際に土に触れたり、野菜の種まきや移植などの実技を交えながら、ご指導いただきました。

1. 農家の仕事～おいしい野菜の作り方～

まず、おいしい野菜を育てる上で最も重要となるのが、「土と肥料」の知識です。嶺岸先生は、野菜が健康に育つための土壌環境の重要性を強調され、適切な肥料の選び方や与え方について具体的に解説してくださいました。

次に、良い野菜を作るためには、「種や苗は信頼できるものを選ぶ」ことが肝心であると教わりました。良いスタートを切ることが、その後の生育に大きく影響するため、品質の良い種苗を選ぶことの重要性を教わりました。



2. 農家の仕事～野菜作りにチャレンジ～

実際に土に触れながら、野菜作りにチャレンジしました。育苗パレットに自分たちで土を入れ、白菜と枝豆の種まき、ブロッコリーとキャベツの苗を移植しました。参加者は嶺岸先生の丁寧な指導のもと、まさに体験学習として野菜作りの第一歩を踏み出すことができました。この講座で学んだことを生かして、おいしい野菜ができるといいですね。



3. 質疑応答から

Q. 農家になるための準備や進学先について教えてください。

A. 農業は、何歳からでも始められます！農業高校や農業短期大学に進んで専門的に学んでも、そうではない方も、誰でも農家になれますよ。農地は借りて始めることも、購入して始めることもできます。

Q. 農家をやっていて大変だったことと一番うれしかったことを教えてください。

A. 大変だったのは、丹精込めて育てた野菜が、厳しい暑さや大雨でダメになってしまった時ですね。その分、今日こうして皆さんにお会いできるような農家になれたことは、本当にうれしいです。

4. まとめ

今回の講座を通じて、おいしい野菜を育てるための具体的な知識と技術を学びました。同時に、嶺岸先生の経験談から農業の厳しさと、それを乗り越えた先の大きな喜びややりがいを感じ取ることができました。特に、嶺岸先生の「世界中の飢えをなくす第一歩になりたい」という夢が強く印象に残っています。年齢や経験に関わらず誰でも農業に挑戦できるというメッセージは、参加者にとって大きな励みとなりました。

5. 児童生徒の感想紹介

- 農業は大変なところもあるけれど、自分の野菜を待っている人がいるという気持ちで乗り切っていることが分かりました。いつか農業の仕事をしてみたいです。(宮城野小 5年生)
- ペットボトルなどの身近なものを使ってトマトやジャガイモを作れることに驚きました。農家はいつでも始められると知ったので、進路と一緒に考えたいです。(七郷中 3年生)

「漫画家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 三浦 和音 先生
〔所属〕 専門学校デジタルアーツ仙台

■ 参加人数 34 人

講座担当者 大場 俊宏

「漫画家の仕事」では、デジタルアーツ仙台の三浦先生を講師にお迎えしました。三浦先生は連載漫画を抱えながら専門学校の講師をしている漫画家です。漫画家の仕事についてご自身の経験を交えながら教えていただきました。

1. 自己紹介・漫画家の仕事について

三浦先生は連載漫画を描きながら専門学校の講師を務められております。連載漫画の他にもはやドルの萌江さんのキャラクターデザインも手掛けられており、幅広くお仕事をされているとのこと。また、自称「パワボ職人」ということで、パワーポイントを駆使し、楽しく講座が進んでいきました。前半で漫画家としての仕事について詳しく話していただきました。先生の1か月のスケジュールから1日のスケジュールまで教えていただき、その多忙ぶりに驚く受講生でした。



2. 漫画家になるまで・実習

後半は先生の小学生時代までさかのぼり、漫画家になるまでの先生の足跡を辿りました。古生物学者になりたかったこと、史学科に入って勉強したかった過去について伺いました。前半からさらに踏み込んで漫画家の仕事について教えていただきました。お話の中で「(専門学校の講師としての)仕事の忙しさを理由に漫画を描かないのはやめよう」、「できない理由を探すのではなく、どうすればできるか考え、工夫することが大事。」という言葉が印象的で、その話を受講生は真剣な表情で聞いていました。その後、コマ割りの仕方について学び、三浦先生から出されたお題をもとに実際にワークシートに4コマ漫画を描くという実習を行いました。実習中も「漫画を描くことで大事なことは話をしっかりと完結させること」、「今の自分に描ける範囲で完成作品を作ること」、「とにかく漫画を描き続け、3か月に1つ20ページの作品を仕上げるペースで描くこと」など、漫画家になるために必要なアドバイスをいただきました。絵や名前を覚えてもらうことで担当者が付くようになるとのことでした。実習後に教室を自由に歩き回り、他の作品に興味深そうに受講生は鑑賞していました。



3. 質疑応答から

Q. どんな練習をすれば絵が上手に描けるようになりますか。

A. とにかく絵を描くこと。ただし、観察して物をよく見て、頭を使ってたくさん描くことが大事。

4. まとめ

先生自身は漫画家の小山宙哉さんの宇宙兄弟という漫画が大好きで、物語や構成などを見て感激することが多々あるそうです。受講者の皆さんも自分が面白いと思うものに対してアンテナを高く持ち、自分の参考にすることが大切とのことでした。

5. 児童生徒の感想紹介

- 先生が優しく教えてくれました。漫画に対する気持ちが変わって、ただ読んで面白いだけでなく、コマなど見て学びたいです。(東長町小5年生)
- 漫画家はただ絵を描くだけではなく、読者の心をつかむような話の構成にすることが大切と分かりました。進路につなげられるようにしたいです。(長町中 2年生)

「看護師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 佐々木周人先生、赤坂佳乃先生、浅田真奈美先生
〔所属〕 仙台厚生病院

■ 参加人数 22 人

講座担当者 中谷 武司

看護師は、患者さんの命と健康を守るために、医師や他の医療スタッフと連携してケアを行う、医療現場の重要な存在です。特に病院勤務の看護師は、急性期から慢性期、手術後の回復期など、さまざまな状況にある患者さんと接する重要な業務です。主に入院患者のケアやこの職業の生きがいについて伝えていただきました。

1. 講話と病院での作業の体験

こどもたちは入り口で病院で実際に看護師が着るナース服に着替えて講義を聞きました。まず、看護師の仕事の内容をスライドで細かく聞いた後、実際に病院で行う聴診器等で自分や友達の心音を聞いたり、お湯を使って手を洗う作業をしました。優しく声をかけながら、相手の気持ちを考えて行う作業を学びました。



2. 介護体験

後半は車いすによる介護体験がありました。コーナーの手前で優しく声をかけながら速さを考えて車いすを押すことは、思った以上に難しそうでした。

その後、看護師さんによる「看護師を目指したきっかけ」についての熱いお話がありました。こどもたちもいつか看護師を目指すために頑張りたいという気持ちになったようです。



3. 質疑応答から

Q. 看護師をしていて一番うれしいことは何ですか？

A. 患者さんから感謝されることや、元気に退院して見送ることです。

Q. 看護師をしていて大変なことは何ですか？

A. たくさんの仕事があり、1つ1つやり遂げるのに時間がかかったり、うまくいかなかったりする場合がありますが、みんなで助け合って仕事をしています。

4. まとめ

看護師の仕事は医師のサポートだけではなく、主に患者さんに寄り添う仕事もたくさんありました。体をさすったり、洗ったり、時には患者さんの話をじっくりと聞いたり、心の面でのサポートをしているところも仕事の1つであることに、こどもたちは真剣に体験に取り組んでいました。看護師の仕事へのやりがいや目指すきっかけの話を聞くことで、こどもたちは自分の家族や友人などへの思いを思い出し、看護師になりたいという気持ちが一層、強くなったようです。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 看護師の仕事はすごくカッコいい仕事だけど、患者さんの具合によって命に係わる仕事だから、大変な仕事だと思いました。 (北仙台小 5年生)

○ 想像していた業務以外にも、たくさんやることがあってびっくりしました。やりがいを感じられる良い仕事なんだと思いました。 (広瀬中 6年生)

「スポーツトレーナーの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 江刺 善之 先生
〔所属〕 アスリートジャパンEsashi

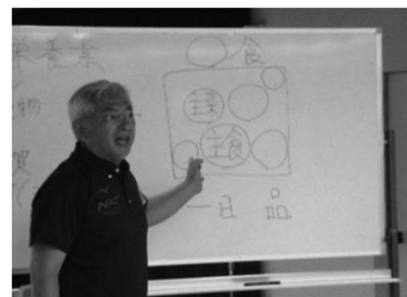
■ 参加人数 30 人

講座担当者 丹野 一輝

宮城県内を中心にスポーツに関する指導を幅広く展開する「アスリートジャパンEsashi」の代表であり、多くのプロアスリートも指導されている江刺善之さんを講師にお迎えし、実技を交えながら楽しく教えていただきました。

1. スポーツトレーナーとは

スポーツ選手が、目標とする試合で最高のパフォーマンスを発揮できるよう、コンディションを整える手助けをするのがスポーツトレーナー。コンディションとは、「目的を達成する為のすべての要因」のことであり、『心・技・体』すべてを把握し、サポートを行うことが求められるということを教えていただきました。「大切なことはメモをする」という江刺さんの教えを実践しながら、こどもたちは一生懸命学んでいました。



2. スポーツトレーナーの仕事(コーディネーショントレーニング)

江刺さんから、筋肉は①生もの②負けず嫌い③怠け者④限界越えしないと成長しない、と教えていただきました。そこで、こどもたち自身の体を使って、パフォーマンスの向上に必要なコーディネーショントレーニングを実践しました。こどもたちは、柔軟性の左右のアンバランスさや意図したとおりに体の動きをコントロールすることの大変さを実感していました。そして、スポーツトレーナーの存在の大きさを改めて学んでいました。



3. 質疑応答から

Q. スポーツトレーナーとして一番大事なことはなんですか。

A. 自分が元気であること!知識をアップデートし続けること!

Q. 仕事をしていて、うれしいことや悲しいことはなんですか。

A. 選手からの勝利の報告がとてもうれしいです。逆に、怪我の報告がくるととても悲しいです。

4. まとめ

「苦しくなってからが記録が伸びる。それを支えるのがスポーツトレーナーの仕事。」という江刺さんの力強い言葉に、こどもたちは目を輝かせていました。たくさんの選手と関わらなければいけない仕事だからこそ、幅広い知識とコミュニケーション能力が必要だと感じていました。「苦手を続けることが大切。」という江刺さんの言葉と熱い想いを胸に、それぞれの夢に向かって頑張りたいと思います。

5. 児童生徒の感想紹介

- スポーツトレーナーは、食事とか姿勢とかも気をつけて選手を見るというところがすごく大変そう。(高森東小5年生)
- スポーツトレーナーはカウンセリングまでやることに驚きました。いろいろな選手から助けを求められるスポーツトレーナーはすごいと思いました。(高森中 1年生)

「イラストレーターの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕 山本 重也 先生
〔所属〕 山本 重也イラストレーション

■ 参加人数 22 人

講座担当者 藤澤 茂和

高校卒業後、実家の工場に勤めながら、自分に問い掛ける期間を経てイラストレーターの道を決意した山本先生に、イラストレーターの仕事についてのお話をいただきました。

後半は、こどもたちがジュニアリーダーをモデルにデッサン演習を行い、山本先生からコツを教わり真剣に描いていました。

1. イラストレーターについて【講話】

こどもの頃から絵を描くことが好きだった山本先生。当時、漫画家になるというのは現実的ではなかったそうです。そのため、実家の工場で働きながら、何がしたいのかと自身を見つめました。やはり絵が描きたいと気付いてからは、専門学校に通いました。そこでは先が見えず、知人のつてを頼ってプロに弟子入りをしました。初めは、煙たがられましたが、毎日通って熱心に絵を描き続けるうちに少しずつ仕事をいただけるようになりました。イラストレーターの仕事には、似顔絵もあれば、依頼主からイメージだけを伝えられたり、本の内容を読んで創造したりと様々です。似顔絵は、ある程度「答え」があるので緊張感があります。イメージから創造するのは「答え」がない・分からないので、売り上げが「答え」になることもあります。



2. 実際にモデルを描いてみよう【演習】

演習では、ジュニアリーダーをモデルにデッサンをしました。初めは、自由に。先生の実演後は、モデルを替え再度挑戦。こどもたちはみんな一生懸命に取り組みました。「プロは、思いどおりの『形』と『色』を自由自在に、素早く表現できなければなりません。そのために、たくさん絵を描く練習をしました。」と話す様子にこどもたちの表情も真剣そのものでした。



3. 質疑応答から

Q. 目の描き方や身体を描くときのバランスについて

A. 目の描き方については、目頭と目じり、眼球、まぶたなどの身体の構造を意識するとよいと思います。身体を描くときには、顔はマルで、首や胴体は筒のように大まかに描いて全体のバランスを見ると良いです。

4. まとめ

「しんどい」「楽しい」は、「振り子」に似ています。たくさんしんどい経験をした分、得られる楽しさが大きくなります。こどもの頃から好きだったことを仕事にした山本先生。仕事で多くの失敗・大きなプレッシャーを経験しながらそれが大きな喜びにつながったことをこどもたちに力説してくださいました。デッサン演習では、こどもたちがすぐにでも描きたい・試したいと思うような工夫やアドバイスをいただきました。

5. 児童生徒の感想紹介

- イラストレーターは活躍する場もいっぱいあるけど、厳しいところもあるということが分かった。デッサンのコツをたくさん取り入れることができた。いい経験になった。(将監小 6年生)
- イラストレーターは自分の描きたいものを自由に描く仕事だと思っていたけど「このような絵を描いて」と決められていることがあると知った。しんどい気持ちが大きければ大きいほど楽しい気持ちが大きくなるという考え方は日常生活に生かせるので生かしていきたい。(三条中 1年生)